

令和元年12月23日
風早北部ふるさと協議会
防犯防災部作成

災害図上訓練の実施結果（報告書）

1. 実施日時：令和元年12月21日土曜日 午前9時半～12時まで
2. 開催場所：沼南近隣センター「ひまわりプラザ」1階 集会室1
3. 出席者：14名
 - ◆ 一般市民：4名（追花・塚崎区・塚崎3・大津ヶ丘1から各1名）
 - ◆ ふるさと協議会防災定例会合委員：5名（追花・塚崎2・塚崎3から各1名・リバティールヒル柏から2名）
 - ◆ 風早北部地域ふるさと協議会役員：1名
 - ◆ 柏市地域支援課・沼南近隣センター：2名
 - ◆ 事務局：2名
4. 議 事：
 - (1) 牧野防犯防災部長あいさつ
 - 今年も大型台風の接近上陸により大きな被害が発生したが、大災害発生時の避難の決定は、住民自らは災害情報を瞬時に認知し対応することが非常に大切となっている。
 - 本日の訓練(講習会)は未然に地域内の危険箇所を想定、察知しておく貴重な機会であることから、今後の地域防災活動や行動への参考としてご活用願いたい。
 - 講師のご紹介
 - (2) 災害図上訓練(ゲーム)実施
講師：柏市防災研究会 松清智洋氏

実施内容は別紙を参照

- (3) その他【事前に用意した品物】
 - ふるさと協議会側 講習会使用消耗品
8色マジックペン・その他の筆記用具・付箋紙・カラー丸シール・
 - 講師側用意 拡大地図(550円×2)
柏市地域別防災カルテ No.19

以 上

私たちの町の災害対策を考える

～ふるさと協議会で初めて災害図上訓練を実施～

2019年12月21日、沼南近隣センターにて災害発生時に危険となりそうな箇所を想定し、避難の方法や改善策を協議する場として、災害図上訓練(通称 DIG※)が開催されました。

昨年秋は、大型台風の上陸、更に、後半には茨城県南部を震源とする小規模な揺れがこれまでよりは若干頻度を高くして発生し、私たち地域住民は、今まで以上に災害への対策や取るべき行動を事前に学ぶことが求められています。見方を変えると、こうした備えを怠ることで、自分たちへの被害が大きくなる、更には死が目前に迫るなどの危険性が增大することを意味しています。

こうした悲惨な体験を出来るだけ避けられるよう、今回、参加者の居住地区である「塚崎区周辺」と「大井区周辺」に絞って、以下の手順で訓練(講習会)が2時間を超える長さで行われました。

※直訳で災害想像カゲーム (Disaster Imagination Game) の頭文字

DIGの進行

- 冒頭で講師より「柏市地域別防災カルテ」を使って風早北部地域の地理的情勢の説明があった。
- 用意された拡大地図上に自然条件での危険箇所(斜面や土砂災害のおそれがある場所)、河川や湖沼など洪水のおそれのある場所、液状化の危険性が潜んでいる場所を書き込みました。
- 町の構造として、鉄道や幹線道路、路地や狭隘の道路、広場や公園などのオープンスペース、頑丈なビルなど火災の延焼を防ぐ建物を書き込みました。
- 地域資源として、役所や消防署、医療機関、学校・地域施設、役立つ人材や組織の所在する場所、防災倉庫や水食料が存在する施設、危険と思われる場所を、カラーシールを使って表示しました。
- 上記の作業を経て、参加者で災害発生時に危険となる場所や現象を協議し、更にこれにどういった対策が講じられるかを話し合いました。
- 講習会の最後では、2グループ(大井区と塚崎区)に分かれての検討協議で導かれた内容として、地域の特徴、プラス(安全な)面、マイナス(危険な)面を発表し合い(以下の記載内容を参照)、その後参加者からの質疑への応答をする形で、会が締めくくられました。

【塚崎区】

- 北から南に下り坂の地形であり、これが大雨の際の洪水の流れとなってしまう
- 昔の田畑や谷津が改良宅地化された場所は液状化の危険性をはらんでいる
- 大規模な医療施設がないことで有事の際の怪我人への対応ができない
- 国道で生活移動が制約される
- 一部に土砂災害危険箇所が存在している

【大井区】

- 土砂災害危険箇所として指定されている地区が存在する
- 高圧線の鉄塔が多く、先般の台風被害のようにそれが倒壊した場合の危険性がある
- 過去には大津川の氾濫経験もあり、河川沿いは危険である

【講師からの助言】

- ◆ 上記の2地区を含めた風早北部地域は、洪水被害は限定的であると思われるので、大規模な地震への対策を念頭にした活動が優先される
- ◆ 通常でも渋滞している道路については、災害発生時は確実に交通困難になるので、その周辺地区は孤立の危険性がある。孤立状態でもしのげる備え、更には渋滞回避の代替ルートの検討を平時に想定しておくことが必要である
- ◆ 主要幹線道路は緊急車両の通行を優先させるために、損壊があっても復旧が優先されているのであって、その沿道住民のためでは決してないことを理解しておくべきである

主な質疑応答(講師に対する質問と→講師のコメント)

- ✓ 在宅避難の可否と避難所への移動判断をどのように決定したらいいのか？
→在宅避難はその家屋の安全性の見極めを事前しておくことが第一であり、それが無い中では、その後の余震での家屋倒壊の危険性もあることから、自ら住宅管理をしっかり行っておくことが求めら、その上での避難の可否が判断されるべきである。
- ✓ 医療体制として大規模災害発生時に地元で医師や看護師がいなくなる可能性を考えると、有事にどういった行動をとるべきか(ネット利用も制約される下で医師のいる場所情報をどのように収集可能か)？→仮に医師のいる拠点病院に辿り着けてもすぐに治療を受けられる保証はない。むしろ地域災害対策本部で応急処置を受け、その後医療機関搬送を期待した方がいいので、まずは災害対策本部に向かうことが得策と考える。
- ✓ 今秋の大型台風接近上陸時は避難移動に際して頼られても支援できず、自己責任での行動を勧めざるを得なかった。→それが正解である。自信と異なり

予め台風接近は情報が入っており、事前の備えができるはずなので、自助での解決を求めざるを得ない。

- ✓ 災害対応への住民意識が必ずしも高いとは言えず、その改善をどこに求めていいか困っている。→地域で粘り強く訴えていくこと以外の得策は見出せない。子供イベントで防災活動を取入れるような手は如何か。

講師からの補足事項

今回は初級編の講習であったが、その応用編として、幹線道路や河川、鉄道によって避難移動が制限され孤立化が発生する地域内での、要支援者の援助(避難)をどのように行っていくか、災害発生時の対応をリアルに検討するような講習内容も紹介された。

講習会配付資料：

- ①大井区及び塚崎区の拡大詳細地図
- ②上記2カ所地図の要所に写真画像貼付け版（講師編纂）
- ③柏市地域別防災カルテ No.19(風早北部地域)
- ④災害図上訓練 DIG レジюме

講習会の様子（写真画像による点描）



大井地区と塚崎地区の↑
皆さんにご参加頂きま→
した

